

第8回 四條畷市田原活性化対策本部会議 概要
～地域が主体のまちづくり発表会～

日 時：平成31年3月25日（月） 午後7時00分～午後8時45分

場 所：四條畷市立グリーンホール田原1階 なるなるホール

参加人数：86人

本部長挨拶

これまでの取組み

各班による発表

「配食サービス、レストランの運営」の発表

「緑豊かな田原を楽しむ」の発表

「楽しいイベント体験、健康づくり」の発表

意見交換

本部長総評

記念撮影

本部長開会挨拶

本部長) こんばんは、お寒い中、また年度末のお忙しいところお集まりいただきありがとうございます。今回、第8回になります田原活性化対本部会議です。この1年と少しの間ひとつひとつ積み重ねてまいりました。平成29年の時点ではおそらく私も含め想像をしていなかった事が少しではありますが、一步一步とおきている状況であります。それは、これまで出会うことのなかった団体が共に同じ日にイベントを開催し大きな集客に繋がったり、あるいは、公園のこれまでになかった活用方法で田原の野菜が販売されたり、楽しく飲食を行う空間が設けられたり、つい先日もこのグリーンホール田原内で手作りマーケットが行われたり、田原地域にとって小さいながらも大きな一歩が、この一年数か月の間で踏み出されたのではないかと考えております。そのうえで、これまでどのような取り組みをしてきたのか、そしてどのような発展を遂げていくのかをこの後の発表でお伝えさせていただくのですが、ここで皆様にはお願いです。これから発表を行う委員の皆さんは、とても緊張されております。どうか発表をお聞きの際は「うん。うん。」と、うなずきながらお聞きいただければ、発表者の勢いも上がってくると思いますのでよろしくお祈りいたします。最後になりますが、これから発表する内容は、いずれにつきましても発表者のみならず、行政のみならず、地域の皆様のお力添えがあってこそ、一歩、一歩と踏み出せ

るものとなります。是非とも最後まで聞いていただいたうえで、「自分だったら、どのような取り組みが考えられるのか」、「どういった形で手伝っていただけるのか」、あるいは、「自分自身が主体となっていこうか」などの思いを馳せながらお聞きいただけたらと思います。それでは第8回田原活性化対策本部会議を始めたいと思います。よろしく願いいたします。

司 会) 本来なら、相談役である区長・自治会長様にご挨拶をいただくところではございますが、限られた時間でございます。ご紹介いたしますので、その場でご起立いただけますでしょうか。相談役の区長・自治会長様でございます。(拍手)

それでは、初めに平成29年11月から田原地域活性化対策本部で行ってきた「これまでの取り組みについて」を田原支所長から報告してもらいます。
支所長お願いします。

これまでの取り組み

～別紙「田原活性化対策本部の取り組み」参照～

支所長) 皆さん、こんばんは。田原支所の笹田です。田原活性化対策本部のこれまでの取り組みについてご紹介させていただきます。

平成29年11月に田原活性化対策本部が発足いたしました。発足するにあたり委員を任命する際に市職員の私達と市長とでかなりの激論を交わしました。これまで、このような委員を任命する際には、事前をお願いすることが多いですが、市長に相談したところ、田原地域には色んな熱い思いを持っておられる方が多いので大丈夫ですということで、公募しました。私達も半信半疑の中、募集をかけさせていただいたところ、予想を上回る18人の方からの応募がありました。

こちらは第1回の様子ですが、皆さん緊張された様子での第1回対策本部会議の開催でした。

先ず最初に課題の整理から始めました。内容としては重要度や短期、中長期ごとに委員の皆さんで課題を整理していきました。

短期的課題の取り組みとして平成29年度、30年度に取り組みを実施してきました。これまで、行政が決めたものを市民の方に提案をして実施することが多かったですが、この会議では、すべて議論を行い、意見を交換した上で実施してまいりました。

実施した内容としては、グリーンホール田原の利用者アンケートを行ったところ、市役所本庁にある血圧計を支所にも設置して欲しいとの要望と、屋外駐車場が暗く利用しづらいとの意見が多くあり、対策本部会議で議論を行い、その意見を受け田原支所から予算を要求し、血圧計と屋外駐車場へ防犯灯の設置を行いました。この血圧計ですが思いのほか人気があり、土曜日、日曜日を中心に利用されることが多く、健康管理に役立っているのかなと思います。

次に地域活動団体の発掘・紹介についてです。田原地域では様々な活動やイベント、ボランティアをされている方がいます。その活動やイベント内容が市民の方に伝わっていないということで、対策本部会議で議論をしたところ、たわら通信にて皆様の活動を紹介していこうということになりました。たわらの「わ（輪）」ということで、紹介された団体はまた、次の団体を紹介していき、田原地域の輪を少しずつ広げているところです。

もう一つは、伝言板の設置です。JRが昔、国鉄時代をご存じの方は利用されたこともあるかと思いますが、当時の駅にあったような伝言板をグリーンホールにも設置し、普段インターネットを利用されない方にも情報を提供できるようにしました。

その次には、市民提案型イベントの創設です。田原地域では様々なイベントが行われています。そのイベントへの集客や周知方法についても議論しました。例えば、音楽に興味がある人は他のイベントには中々、参加されにくいという意見がありました。会議の中で、イベントを合同で行えば興味のないジャンルのイベントでも参加しやすくなるのではないかという意見を受け、不安を抱えながら制度を創設しました。実施されたイベントは、これまで毎年開催されている田原音楽祭と食器のリユースをする食器あるある市、地域のコミュニティを大事にする多笑食堂と一緒に開催することで、音楽には関心があったけれどもリユースに関心が無かった人も参加していただける等の、新たな出会いも生まれました。

こちら北谷公園ですが、オズの農村マルシェと称し、地域の野菜を使ったマルシェ（市場）や、手作り品の販売、アルコール飲料の販売にも挑戦し、たくさんの方に来ていただくことができました。このイベントの開催にあたり区長様、自治会長様にもご協力いただきました。最後に、元気であるコンサートと言いまして、ご高齢の方のカラコロ体操と少年少女の合唱を共に行い、たくさんの方の笑顔が見られました。このような形で行政が主体ではなく、市民が発案し実施していくイベントが創設されたところです。

次に、日々の暮らしのアンケートを取ったところ、特に若いお母さん方から戎公園内の見通しが悪く子どもたちを遊ばせるのは不安という意見が多数寄せられました。公園内の中低木が伸びきっており見通しが悪くなっていたので、シルバー人材センターの協力を得ながら剪定を行いました。整備され見通しが良くなった公園では、遊びやすくなったということで、現在は子どもたちで賑わっています。

中長期的な課題として、日々の暮らしのアンケートでも不満足と回答した人が多かった、「買い物」「医療」「コミュニティバス」の3点を最重要課題として捉え、議論を重ねてきました。

先ず、これらの課題を議論するにあたり、先進事例の視察を行い議論を行うことになりました。視察先につきましても本部委員の方々に選定していただきました。コミュニティバスについて、南山城村や木津川市へ視察を行い、対策本部会議で議論を重ねた上で、「持続可能な公共交通に向けての提言書」を7月に四條畷市地域公共交通会議に提出しました。公共交通会議では様々なことが議論されています。現

在の進捗といたしましては、平成31年度に利用者ニーズを聞きながら、新たなコミュニティバスの利便性を高めた施策をとっていくことになっています。コミュニティバスについてのワークショップの開催も予定しています。その際は意見をいただきたいと思っております。

次に、まちづくりの先進事例として、南山城村に行ってみりました。南山城村にはお茶や野菜、地域ならではの食材を使ったお惣菜等たくさんの資源があり、それらを道の駅で販売するなど地域資源を上手く活用されていました。道の駅「みなみやましろ村」の社長である森本さんにお聞きしましたが、現在の形になるまで相当な時間をかけ、地域の中で様々な方と議論を重ねた上での成功であるということがわかりました。

堺市にある泉北ニュータウンにも行ってまいりました。泉北ニュータウンは田原台よりも早くまち開きが行われ、高齢化が非常に進んでいます。田原地域の高齢化が進む前に研究し、田原地域で事前に対策できることがないかという思いで視察を行いました。泉北ニュータウンの槇塚台では、地域のネットワークを活用し、空き家や空き店舗などで食事ができる場所を作ったり、高齢者の介護ができる施設を作るなど、地域にある空間を上手く活用されていました。また、レストランの二階部分は子育てサロンとして活用されていました。

3カ所目の視察ですが、岩手県紫波町に市長と職員2人で行ってまいりました。補助金を一切使わずにまちづくりが成功したという事例です。特に印象的だったのは「消費を目的としない訪問者を増加させること」がまちづくりのキーポイントだと教わってきました。消費を目的としない訪問者が増えれば、地域ににぎわいが生まれ、店舗や医療等のサービス・産業が発生する。そうすると地域に活気が生まれ、定住・活性化が図れるという成功パターンを学ぶことができました。

このような事例を田原地域にどのように活かしていくのか、活性化対策本部で非常に悩んだところです。そこで、行政と市民のそれぞれの役割に分けてみようという結論になりました。

行政については、行政内の条例などの障壁を除去していくこと、地域の方が活動しやすい仕組みを作ること、地域で活動されている団体を支援していくことを行政の役割としました。地域の方は、地域が主体となり、消費を目的としない来訪者が増える企画・運営を増やしていこうという結論になりました。

これまでは、行政が計画したまちづくりが非常に多かったのですが、市民中心のまちづくりへの転換というのが活性化対策本部が出した結論です。

お手元に三種類の絵はがきがありますでしょうか。この後の発表にもありますが、「配食サービス、レストラン運営」、「緑豊かな田原を楽しむ」、「楽しいイベント体験、健康づくり」は市民主体のまちづくりを意識したものになっておりますのでよろしく願います。

以上で私の発表を終わります。

司 会) 説明ありがとうございました。なお、皆様からのご質問や意見交換は、一括して、

最後に行いますのでよろしくお願いします。それでは、各班の発表に移ります、まず最初は、田原台2丁目の岩城さんと田原台8丁目の南佐さんからの発表です。その場で起立願います。内容は、配食サービス、レストラン運営となります。このチームは、視察や日々のアンケート調査結果などから、食を通じてのコミュニティに関する発表になっております。この発表に向け、保健所からの助言や実践に向けての試行実施を精力的に取り組んでおられます。それでは、用意もできたようなので岩城さん、南佐さん発表をお願いします。

「配食サービス、レストランの運営」発表

～別添「配食サービス、レストラン運営」参照～

南 佐) 食堂・配食チームの発表を始めます。8丁目に住んでいる南佐です。よろしくお願いします。

岩 城) 2丁目の岩城です。よろしくお願いします。

南 佐) 食堂・配食チームはこちらのイラスト（別添参照）のような場所を作り、地域に憩いの場が欲しいと考えました。現在は、核家族化、少子高齢化が進み孤立しやすい状況になっています。子育てママの場合、家族以外の誰とも話さない日も多く、ストレスが溜まりやすい状況です。お隣に住んでいる人がどんな人か知らなかったり、不審者に間違われることを恐れ、困っている人に声をかけにくいこともあります。昔あった、地域のお寺や校庭の開放はなくなり、公民館や公園等のコミュニティスペースは利用しにくい現状です。心の拠り所やつながりが持ちにくく、昼間独居生活の場合、孤食や欠食が増え健康にも良くないです。

イラストのようなコミュニティスペースがあれば、みんなと一緒に食事をしたり過ごすことで、引きこもりから抜け出すことができます。また、同世代・世代間交流が促進されます。さらに、特に田原地域での災害時には、顔見知りの繋がりがあることによって助かる命もあるかもしれません。

活性化対策本部では、泉北ニュータウンの榎塚台にあります「榎塚台コミュニティレストラン」に見学に行きました。そのようなコミュニティスペースを田原地域にも作りたいと考えています。私達が目指す場所の内容は、①食事やお茶ができる場所、②お子様から高齢者がくつろぐことができ、楽しむことができるコミュニティスペースがある場所、③榎塚台のような一体型レストラン、例えば、一階部分が子育て支援センターのような場所があれば良いなと思います。そして誰もが気軽に足を運びやすいよう、アカカベの辺りの中心部にあればいいと思います。その場所の要素としては、ゆっくり話をするができる場所、仕事以外の繋がりが出来る場所、用事がなくてもふらっと立ち寄れるような地域に開かれたみんなの居場所があればいいと思っています。

実際に、食堂・配食チームでは「田原ほっこりサロン」と名付け、2月21日と

3月1日に地域交流スペースを設けました。子育てサロン「カンガルーホップ」、ボランティア団体「食器あるある市」「ふれあいサロン」や、田原小学校校区の民生委員・児童委員など多くの方々に協力いただき開催することができましたので報告させていただきます。実際のチラシです（別添）。2月21日にグリーンホールの3階会議室で、参加者から実費分だけ頂いて、交流スペースを設けさせていただきました。

3月1日にはアカカベ前で食器あるある市さんとコラボをして交流スペースを設けました。2月21日ほっこりサロンの様子です（別添）。写真の手前はキッズスペースで、子どもがおもちゃを使って遊べるスペースです。その奥には、お茶のスペースがあり、奥に座ってらっしゃるのが田原支所長の笹田さんです。このような場に市役所の方に来ていただく事で、何気ない会話の中からニーズを引き出しただくことができるので良いなと思いました。

同じく同日に開催したほっこりサロンの様子です。食器あるある市さんとコラボさせていただき幅広い年齢層の方に興味を持っていただけたと思います。こちらの写真は、地域のお子さんを抱っこしている職員の塩見さんです。子育てママの困っていることを何気ない会話から引き出してくださいました。意外な一面を見ることができ親しみを持つことができました。

3月1日のほっこりサロンの様子です。手前が子ども用のリユース服、右奥には休憩スペースを設けました。会話を楽しんだり、アカカベで購入したものを食べたりされていました。温かいコーヒーを飲みながら色々な方と会話できて楽しかったという声や、買い物ついでに立ち寄ることができるのでこのような場所で開催してほしいとの声を頂きました。

アンケートを実施したところ、どのような場所が欲しいですかという問いに対して、一番多かったのが、このようなカフェ交流スペースで、続いてキッズスペース、マルシェや市^{いち}を開催してほしいという要望をいただいております。

ほっこりサロンの感想、良かった点の中から私たちが嬉しかったものをご紹介します。「日頃話したことがない方と話げできた」、「久しぶりに小さい子の声が聞けた」という感想を受け、開催して良かったと感じました。

また様々なご意見も頂いております。「どんどん色々な団体と連携すれば良いのでは」「告知やPRが課題ですね」「継続開催してください」「音楽があればいいな」等の声をいただいております。

開催してみたの私たちの感想ですが、もっと早くお知らせできればより多くの人に楽しんでいただけたかなと思います。また、定期開催することに加え、必要に応じて出張交流スペースも効果的だと感じました。ほっこりサロンに関して、持ち込みも可能だったので、アカカベで購入したものを食べながら会話を楽しんでおられる方もいらっしゃいました。

さらに、この様なことがありましたということを紹介します。最近、田原に引っ越しされてきた赤ちゃんとお母さんが、立ち寄ってくださいました。地域の知り合

いや情報が少なかったので繋がりが持てなかったとお伺いしました。その方に、地域子育てサークルの情報を伝えることができ、良かったと思いました。

岩 城) 今後に向けて、お手伝いをいただける方、アイデアや知識をお持ちの方、技術や場所、活動運営資金のご提供をいただける方、どんな小さな力でも、ご協力下さるととてもありがたいです。まずは、月数回から地域交流スペースを開催していけたらと思います。皆さんに支えていただくことが私たちの力になります。ロコミなどの応援もよろしくお願いいたします。

最後にひとこと、新聞記事より抜粋したものを紹介します。「折々のことば」コーナーに載っていたものです。「用もないのに行く、顔を出しておきたくなる場所がコミュニティだと僕は思うんです。」と、ジャーナリストの方の言葉です。「コミュニティが持続する条件は、なんとなくみんな顔見知り、かつ思いがけず面白いことが起こる」ということだと言われています。

来られた方の気持ちの中に、何か一つでも心に残って、また覗いてみようかなという思いを持っていただけるような、こういうスペースを開催できたらと私たちは思っています。これで発表を終わらせていただきます。ありがとうございました。

司 会) ありがとうございます。岩城さん、緊張されてたかと思いますが、発表をした後の今の感想をお聞かせ願ってもよろしいですか？

岩 城) このようなプレゼンは初めてなので、かなり緊張しました。が、私たちの熱い思いがストレートに伝えられたと思います。もう一言、できれば行政にアカカベの近くに交流スペースを設けていただけたらありがたいと思っています。

司 会) 南佐さんは、このプレゼン資料を作成するのにすごく頑張っておられて、つい先ほど、1時間ほど前にこの資料ができあがったんですが、発表を終わられてどうでしたか。

南 佐) 私一人の力では、ここまでこれなかったと思います。いろいろな方に協力していただいたことに感謝したいと思います。

司 会) 本部長からご意見等がありましたらお願いします。

本部長) さすが、岩城さんです。このような場で行政へ要望すると、皆さんが聞いているので、あの時の対応はどうなっているのか…と言えるので素晴らしい声の出し方だと思います。(笑) 冗談はさておきまして、ふらっと気兼ねなく立ち寄れる場所があればいいと、平成29年11月に発足当初からことある会議の度にお二人はおっしゃっていたと記憶しています。そうした中、すでに実践し、改善し、さらに地域の方の声も聞きながら行ってる姿勢は本当にすごいことだと思っています。地域の方に

担っていただく役割と行政が担う役割という部分でしっかりと行政として頑張っていきたいと思います。ありがとうございました。

司 会) ありがとうございました。続いての発表は「緑豊かな田原を楽しむ」の発表となります。このチームのメンバーを紹介します。お名前を呼びますのでご起立願います、上田原の奥田さん、谷さん、下田原の奥村さん、中西さん、田原台1丁目の山本さん、4丁目の内藤さん、さつきヶ丘の森川さんです。見てのとおり少し年齢層が高めの大人のチームです。このチームは地域資源を生かし自然と向き合い田原地域の良さを活かしていこうというチームです。最初、チームが編成されたとき、おじさん比率が多く、私は少し心配でしたが、心配を裏切り着々と取り組みに向けた準備を始められております。「公募型協働のまちづくり提案事業」に応募され2月24日に公開プレゼンテーションにも参加されたので、本日はより磨きのかかったプレゼンになると思います。

それでは、準備も整ったようですので、チームを代表して山本さん、中西さんに発表をしていただきます。では、お願いします。

緑豊かな田原を楽しむ発表

～別添「緑豊かな田原を楽しむ」参照～

山 本) 「緑豊かな田原を楽しむ」、地域の資源を生かした取り組みについて、グループを代表して私山本から、まず事業の背景についてお話しさせていただきます。田原活性化への取り組みとして、地域資源を見つめ直すことに焦点を当て、できることを考えました。田原の地域資源を知る、好きになる、そして楽しむことが大事だと考えます。田原の地域資源というのは、大阪中心部への近さ、2つの鉄道、2つのバスがある。そして、その割には地価が安い。そして空き地もあり、今後も住宅等が建っていくだろうと思います。周辺には恵まれた自然環境があり、里山と隣接している、歴史と文化がある。そして、活発なボランティア活動、地域のネットワークがある。皆さんの力が一番大きな資源だと考えています。

歴史と自然について触れますと、40年前の宅地開発の際に、田原台1丁目に縄文人の暮らした跡が見つかりました。どんぐりやシイタケ、イノシシといった縄文人が生活できる豊かな自然環境がありました。その頃から、昆虫や赤とんぼも生息していたと思われれます。そのこともあり、第7回 575-四條畷市俳句コンテスト教育長賞に選出された「田原台 何万匹の 赤とんぼ」という早川さんの俳句もできたのだと思います。私たちは、田原に新しいブランド、ものがたりを創ろうと考えています。目的は、若い世代に移り住んでもらえるようにと考えています。例えば、「二つの鉄道いいとこどり」「みんな昆虫にムチュウの街」「子どももシニアも安心の街」「有償助け合いサービスの街」、このようなブランドができればなと考えています。

議論としては、遊休農地・放置山林の活用について、子どもの学力向上、シニア人材など地域資源を活かすことも必要ではないかという議論がありまして、結論と

しては、シイタケづくりにより財源を生み出し、イベントを開催する。その過程でメンバーを拡大し、資源活用事業に順次着手し、新たなブランドを創りあげようと考えました。以上で事業の背景の説明を終わります。中西さんの方から具体的な事業内容についてお話しします。

中 西) 中西でございます。今説明しました事業の背景を踏まえまして、具体的な課題を一つにしぼる必要があると考えました。シイタケ栽培を手がかりにした里山保全と地域活性化という目標を掲げました。そのために、田原シャングリラの会を7名で立ち上げ、現在は13名です。この事業の目的はシイタケ栽培から広がる田原の活性化です。

まずは、シイタケ栽培・生き物の飼育から繋がる里山の復活です。そして遊休農地を活用した野菜や米作り等の農業体験、そして田原の資源の活用を行うことにより、地域の賑わいとコミュニティづくりを行います。幼児から高齢者まで幅広い方が参加し、子どもの楽しみと高齢者の生きがいにつながるのではないかと思います。さらに、田原の良さを内外にアピールし、「一度田原に行ってみようかな」という人が増え、田原に移り住む人も増えてほしいなという願いがこもっています。

これは、「田原縄文きこの祭」というイメージのイラストです(参照)。田原縄文遺跡の紹介やドングリ試食、貫頭衣づくりなどの縄文人の暮らし体験、榎木の販売など楽しいイベントを考えています。今年の秋か来年の春頃には戎公園で開催予定です。ここからは、私たちがすでに取り組んでいる事業の紹介です。実際に山に入り、整地作業を行い、整地が完了しました。提供していただいた原木を、85cm程度の長さに切る玉切りと呼ばれる作業を行い、原木が150本程度できました。さらに、原木にドリルで穴を空け、シイタケ菌を駒打ちします。菌を打ち込んだものは榎木といい、それを山に運び入れます。そして150本の榎木の伏せ込みが完了しました。中々大したものですね。(笑)

一方、畑の方とは言いますと、10年ぐらい放ったらかしにしていた畑の草を草刈り機で刈りました。消防に届けを出した上で、その草を燃やしました。会員さんの家族が耕運機で耕してくれています。この畑では、田原にない作物を作ろうかなと思います。一つは「南京豆」、それからクレソン、あとは一般的なさつまいもを作りたいです。

我々が始めたことはほんのわずかなことでしかなく、基礎の基礎であって、これから住民の皆さんに広く声を掛けて、参加を呼びかけていきたいと思いますので、その節はよろしくお願ひします。以上で、報告を終わります。

司 会) ありがとうございます。少しお話を聞かせて下さい。私は先日の手作りマーケットで椎茸の榎木を購入したのですが、この秋には収穫できるのでしょうか。

中 西) その件については、奥田さんどうでしょうか。

奥 田) 今年は無理です。来年の秋になります。

司 会) そうですか。それまで楽しみしています。

司 会) 山本さん。発表を終えていかがでしたでしょうか。すごく落ち着いた発表だったと思いますが。

山 本) どうでしたかと言われましても…とにかく限られた時間で、短く分かりやすくを心がけて発表しました。もう少し時間があれば、もっと丁寧に説明できたのですが。

司 会) ありがとうございます。それでは、本部長、一言お願いします。

本部長) ありがとうございます。丁寧に背景の部分に時間を割いていただいて、長期戦略があり、時間を区切り、最終的に到達したいところから、まずは椎茸で財源確保をしたうえで展開を図り、その先には元々ある田原の魅力をより広げていくというストーリーが出来上がっていて、その一歩目に着手されています。中西さんをご自身でおっしゃった通り、作業はすごく大変だったと思います。このように一步一步と取組を進めておられますので、お話をお聞きになって関心がある方は是非チームに加わっていただき発展させていただければと思います。
ありがとうございます。

司 会) ありがとうございます。それでは、続いての発表は、「楽しいイベント体験、健康づくり」の発表です。メンバーを紹介します。上田原の森田さん、下田原の西川さん、平松さん、田原台2丁目の相良さん、田原台8丁目の寶谷さん、さつきヶ丘の旭さん、事業所推薦の前原さん、安田さんです。このチームは、性別のバランスもとれており、多くの意見が出され活発な意見交換が行われた班です。

発表に向けての会議も最も熱心にされていました。時には、意見が割れることもあり、少しヒヤヒヤしたこともありましたが、その分、実行力もあり、班員の中でさまざまなチャレンジもなさって下さっています。

それでは、準備は整いましたか？発表をお願いします。

楽しいイベント体験、健康づくり発表

～別紙「楽しいイベント体験、健康づくり1」参照～

旭) 皆さん上手にプレゼンされているので緊張してきましたが頑張ります。

イベント班を代表して発表させていただきます。旭です。

イベント班はこれまでの活性化会議の中で発足して二回、細かい打合せを数回重ねてきました。何かイベントをすることで田原地域を活性化できないだろうかと考えました。従来のイベントに加え、新しいイベントを行うことでこれまで地域に関

心の薄かった人、気づいていなかった人にも参加してもらえたり、交流してもらえることができればと思いました。

まず、このようにたくさんイベントがあります。そこで田原地域のイベントを整理してみました。これだけのイベントがありますので、どのようなイベントがあるのか少しご紹介します。こちらは子ども関連のイベントです。田原地域は子育てサロンやサークル、ひまわりこども園での親子教室、子育て支援センターが開催しているおもちゃの貸し出しなどがあり、それぞれ活発に活動しています。

こちらは食器のリユース市です。お家にある使っていない食器を回収して展示しています。実際に私も持っていきました。見に来た人が気に入った食器を持ち帰ることが出来ます。先日もアカカベ前で開催されており、次回は6月開催予定とのことなので、皆様も参加して頂ければと思います。

こちらが、11月に北谷公園で開催されたマルシェです。このマルシェには西部地域や生駒地域からたくさんの方が来られ、子どもから大人まで楽しめるイベントでした。

田原地域では芸能や音楽に込める思いが強く、才能を持った人材が多い地域です。キッズコーラスでは12月に子ども達が田原地域を回って、クリスマスキャロルを歌うイベントを始め、色々な場所に出向いて活動しています。それ以外にもたくさん音楽に関係する方がおられるようです。

こちらはお祭りです。住吉神社のお祭りやお正月の大とんど、夏には各地区で集まって小学校で夏祭りが開催されています。

自然豊かな田原の地には天の川の源流が流れています。カスミサンショウウオや私たちが気づいていない小動物がたくさんいるようです。田原地域では歴史の勉強会も開催されています。

毎日健康でいきいきと過ごすための勉強会も開催されています。また、健康長寿を目的とした体操教室や料理教室も開催されています。

こちらは消防団やライフセーバーズなど、地域を見守るための活動も盛んです。子ども達への防災教育のイベントや見守り活動をされています。まだまだたくさんイベントがありますが、今紹介した中に皆さんが参加されたイベントはございますでしょうか。イベントが開催されてもイベントを知らないという人が多く、周知されていないというのが現状です。

現在の周知活動はこちらになります。チラシやホームページ、市の広報誌などたくさんありますが、皆さんはどのように情報を集めているのでしょうか。また、イベントを開催したいと思っている方からも、「どうやって開催すれば良いのか」「一緒に手伝ってくれる人いないかな」「開催は決まったけど、どうやって告知すれば良いのか」というような方が結構いらっしゃいます。そのような人たちをサポートするために、情報発信ツールが必要じゃないかと考えました。まず一つ目は、自宅にインターネット環境が無い人やネットを使うことが苦手な人のために、グリーンホール一階に掲示板を設置していただきました。カテゴリー別にイベント情報を掲示しています。しばらく対策本部で使いながら、良い利用方法を考えています。二つ

目が、田原地域で開催されているイベントの一覧表を作成し、月別や年間ごとに分け、目に見えるようにしているところです。そして、3つ目です。インターネット、SNSを活用したツールも動き出しています。官民の枠を超えて、同じ思いを持つ人が、田原.net という会を発足し、facebook でページを立ち上げました。

このような地域のイベントを発信する方法が根付いた頃に、イベントが毎日のように開催され、人々が集い、田原の活性化に繋がる。形のあるプラットフォームが実現できればと思います。では、この田原.net を立ち上げて下さった西川さんに、詳細を教えてくださいたいと思います。

～別紙「楽しいイベント体験、健康づくり2」参照～

西川) お手元に田原.net というチラシはありますか。これは配食チームの南佐さん、イベントチームの安田さん、相良さん、そして私で情報発信投稿サイトを立ち上げました。しかし、初めからこれを立ち上げようと思っていたわけではありません。そして田原のまちはどんなまちかと考えたとき、こんな町ではないかと思いました。そしてこんなまちならこんなイベントが良いのではないかと考え、例えば、田原に住んでいる方はお庭を綺麗にされている方が多いので、ガーデニング教室の開催が良いのではないかと思いました。しかし、話し合いのうちにここが出発点ではないと気づきました。出発点は田原の情報を発信する環境を整えることだと思い、田原.net を立ち上げました。さらに facebook のページサイトも立ち上げました。

そこで皆さんにお願いです。田原で活動している団体・サークルで田原.net を活用して、情報を共有していただきたいです。さらに、今日来られている方から来られていない方に、田原.net という情報サイトができたということを伝えて、活用していただきたいです。例えば、「上田原の集会所の梅の花が咲きました。」とか、「9丁目の桜が見頃です。」というように投稿してみてください。その横のチラシはイベントの告知の情報だったり、ワークショップの情報や、サークルやボランティアの会員募集だったり、飼い犬が迷子になりましたという情報など、自分の身近な情報を発信して活用してほしいです。そこで皆さんにお願いです。とにかく一度検索して、イイネ！を押していただきたいです。今日の田原活性化対策本部会議や、明日から田原処理場の見学が4月1日まで始まるという事も掲載しています。明日、田原小学校の多目的室で公共施設再編に関する市長との意見交換があるということなど、様々な情報を掲載しているのでまたチェックしてください。

住むには良いが暮らすには不便、歩いて行けるところに楽しめる場所がある。寝に帰ってくる場所から、生活を楽しむ場所になり、地域での自分の居場所作りができるようになると考えています。3月で田原活性化対策本部は解散しますので、私たち4名で「田原.net」という団体を立ち上げ、活動を始めました。他にも、活性化対策本部のメンバーが団体を立ち上げているので、交流・協力しながら田原の魅力を発信し続けたいと思っているので、皆さんからの投稿をお願いします。

今後、Instagram や Twitter などを活用する環境を整えていきたいと思っています。その情報も、今後「田原.net」で伝えていきたいと思いますので、皆さん関心を持ってください。以上です。

司 会) ありがとうございます。少しお話伺います。安田さん、よろしいですか。SNS の仕組みの発案はどの時点で、誰と相談して行われたのですか？

安 田) イベント班でいろいろと話し合う中で、情報を発信するには何かプラットフォーム的なものが必要ではと考え、予算もない中で西川さんを中心に facebook がいいのではということで始めました。

司 会) 旭さん。大変落ち着いた発表でしたが、終わられての感想があればお願いします。

旭) このような発表は職場でも行っているの、まあこんな感じかなと思っております。

司 会) ありがとうございます。それでは、本部長一言お願いします。

本部長) 発表ありがとうございます。この班は構成人数が一番多くて、会議を重ねる度に激論が交わされていたのを覚えています。いろいろな意見がある中で、いろいろあるなら、いろいろとやってみればいい、それをしっかり周知していくことが大切だという結論に至ったと思っています。SNS は若い層の方々を中心に、SNS を使わない方々にはグリーンホールに掲示板を設置するなど、様々な角度から考えていただいています。

例えば、まつり in 田原は20数年の歴史があっても、西部地域の人には聞いたこともないと言われたりします。せっかくの素晴らしい取り組みがこのチームの発信によって広がっていく未来を楽しみにしているところです。ありがとうございます。

司 会) ありがとうございます。それでは、会場の皆さんと意見交換をいたします。意見交換のルールは、挙手をしていただき、マイクをお渡しした人が発言できます。できるだけ多くの意見交換をしたいのでよろしくお願いします。

意見交換

参加者) 最初の説明の中で、消費を目的としない来訪者を増やすというお話がありましたが、もう少し詳しく教えてください。

支所長) これまでのまちづくりでは、大きな施設を作ればそこにテナントが入り地域が活性化するだろうと、色んなところでまちづくりを進めてきました。しかし人口が減

少傾向にある中で、これまでのまちづくりではなかなか成功していないのが現状です。消費を目的としない来訪者が集まる街というのは、イベントなど何か楽しいことが行われ、多くの人が集まるところにはそこで商売をしようという人が生まれ、魅力ある商店ができればそこに人が集まり賑わいが創出され地域が活性化されるという手法です。

参加者) この会場に入るときにいただいた、このポストカードですが、どなたのアイデアでどなたが描いたのか、田原のまちのいい雰囲気が伝わってきて非常に素晴らしいと思います。

支所長) この絵を描いてくれたのは、秘書広報課の職員で藤戸といいます。紹介します。

司 会) それでは、この絵を描いた藤戸さんにお話しを聞きたいを思います。とても素晴らしい絵ができたと思いますが、特に苦勞された点などありますか。

藤 戸) 第7回の活性化対策本部会議に参加させていただき、お話を聞き下絵を描いて1月に入って委員の皆様にお示ししました。やはり皆様地域の実践者の方々でたくさんのご意見をいただき、一からもう一度描き直しました。その時に出したものと今のものとは全く精度が変わりましていいものが出たと思います。イラストは気に入ってもらえたでしょうか。

～会場から拍手～

ありがとうございました。

本部長) 私から少し捕捉させていただきます。彼は秘書広報課の職員で、今日も私の随行で来ている職員です。広報担当として毎月皆様のお手元に届く広報誌を担当している職員です。絵の才能が優れている職員で、明日からの公共施設再編の意見交換会でも彼の書いてくれた絵をモチーフとしながら、どのようなまちづくりをしていけたらいいかというお話をさせていただけたらと思うのですが、やはり限られた時間の中で言葉だけでは限界があるので、この会場に来ていただいた皆様に、1年以上かけて議論してきた活性化対策本部委員がどのようなまちを目指しているのかが目に見える形になればいいという思いで、彼に参画してもらったという背景です。

参加者) 職員で申し訳ないですが、質問させてください。田原.net で具体的な説明をしていただいたんですが、情報をくださいということを熱く語っていらっしやったんですが、どのように情報を集めていくのか、どうやって西川さん、安田さんのところへ行けばいいのかをご案内いただければお願いします。

安 田) facebook で「田原.net」と検索してもらったらページにたどり着きます。また今日お配りしているポストカードと一緒にチラシを入れています。そのQRコード

にスマホなどをかざしていただいたらページが開きますので「イイネ！」をしていただけたらと思います。また、田原の中でのちょっとした気づきやイベント情報なんかを投稿していただけたらという思いで始めました。この情報がちょっとしたお出かけのきっかけになればと思っています。

司 会) 田原地域で、田原中学校卒業生の若い世代で構成して活動している「黒獅子会」の方にご意見いただきたいと思いますがいかがでしょうか。

参加者) 黒獅子会の松田です。今日のお話を聞いていて消費を目的としない来訪者を増やすと言いながら発表の内容は内向きの内容が多かったと思います。ちぐはぐになってるように思ったんですが、いかがでしょうか。

本部長) ありがとうございます。住んでいる人が行かないイベントには外から人は来ないんですよ。行政でもよくあるんですが、外へ向けての発信は当然大切なんです、まずそこに住んでいる人が気軽に訪れたいイベントこそが魅力があり、それが近隣の方にお声かけをして広がり連鎖し多くの人が集まってくるというのが、全国的に今とりざたされています。最初の方のご質問にも関連してくるんですが、最近で有名なところだと、青森県のアウガ施設があるのですが、ここは、町が寂れてきたので行政が税金を投入してすごく立派な箱物を建てたんです。たくさんのテナントスペースを作り多くのテナントを呼ぶ予定でしたが埋まらず潰れてしまいました。結果潰れる施設に税金を投入し続けたという失敗と言われている街づくりの事例があります。最初に支所長の説明でもあったように、最初に建物を作り中身を決めるという手法はどこも成功していないんです。例えば、(最初の発表にあったように) 気軽に立ち寄れるような場所があり、定期的に5人、10人が集まるようになれば、実はそこで一定の集客が見込めるので店舗として成り立つようになるんです。このような物が集まり継続的に集客が見込めると、建物が建てれるようになります。ここが魅力があるものになれば、さらに多くの方が訪れるようになり、まちに活気が生まれるというのが、消費を目的としない来訪者がさらに訪れるようになり、まちの活性化につながるという一歩目なんです。最初に支所長からもあったように、これは非常に時間がかかることで、短期的に行政が税金を投入すれば1年や2年活発になるかもしれませんが、5年経てばなくなっている。そうではなく、持続可能な形で発展し盛り上がるには、小さいかもしれませんが、大きな一歩を踏み出しているのが今日発表してくださった皆様なので、ちぐはぐではないと私は考えています。

参加者) 今日発表をされた方々は私も存じ上げてる方もいるんですが、いろんな団体で活躍され、お忙しいにも関わらずこのような発表をされ新たに取り組んでいこうとされていることに感動しております。ご苦労様でした。質問というか意見ですけれども、この田原活性化対策本部というのは、当初は一年で終わりということだったん

でしょうか。今日の発表で様々な事業を立ち上げることで活性化を図ろうというのを感じています。さらに、もっといろいろなものがあるのではないかなど。笹田さんの初めの発表のなかで、短期的な課題と中長期的な課題というのを言われてました。中長期的な課題についても更なる対策があれば良いと思っています。今後は、今回のメンバーさんが続けられるのか、新しいメンバーを募集されるのか、どのような形になるかを市の方で考えていただきたいと思います。

支所長) ありがとうございます。田原活性化対策本部会議の委員については、この3月31日で任期が満了します。ここについては第一ステージが終わるという事で、第二ステージについては次は実践の部分、その部分については私たち行政がサポートしていくという形になっています。それと、田原活性化対策本部会議の委員のメンバーの中には、新たに組織を立ち上げて、行政と一緒に協力して頂けるというお話もいただいております。そのあたりについて委員の方から説明をいただきます。よろしいでしょうか。

中 西) 結局4月1日からどうなるかということですよ。活性化対策本部会議の中でこの3月までに生まれた団体があります。4月からは生まれた団体が自立して活動していきます。それは誰も止められないし、つぶれても誰も助けてくれない。つまり、生まれてきた団体が相互に交流しながら活動していくと良いのではないかな。あとは、団体が困ったときに相談できる場があれば良いと思います。そこから輪が広がっていけばいいと思います。そこには行政の熱い支援も必要です。

支所長) ありがとうございます。ともに頑張っていきたいと思っています、当然、既存の団体も私たちと一緒にさせていただきますし、新しい団体とも仲良くしながらこの田原地域を活性化させていきたいと考えておりますのでよろしくお願い致します。

司 会) ありがとうございます。他にご意見等ないでしょうか。そうしましたら本部長から総評をお願いします。

～本部長の総評～

本部長) ありがとうございます。まず今発表していただいた方のみならず、最後の発表にもあったように、すでに田原地域では本当に大きな力で地域の方々が主体となり様々な取組みを行っていただいております。

私も田原で行われる事業には可能な限り参加させていただいておりますが、その地域のパワーには素晴らしいものを感じています。年始の大とんどから始まって年度末までたくさん行われています。また、子ども達の安心安全な環境のために毎日活動されている方々など、幅広い活躍をされています。その中で行政が何が出来るのか。日々の暮らしのアンケートにもありました「買い物」についてですが、まず大

前提として9,000人が住む田原地域だけを商圈としては成り立たないので、スーパーマーケットは出店出来ないんです。そこで何をしないといけないのかと考えた、消費を目的としない方々がおのずと田原地域に訪れてくるような形が広まれば、商圈が9,000人からさらに外へ広がり一定の数が増えてくれば、商圈として成立してきます。

それに加え、明日の午後7時から田原小学校で公共施設再編に関する私と皆様の意見交換会を予定しています。そこについては、アカカベのある付近の商業地域を中心として、何とか公民連携という形で活性化を図っていけないかということもテーマの一つとしています。このように、行政として出来る買い物の拠点を整えるということを一歩一歩と進めさせていただいております。また、公共交通についてもこれまでのように、行政がバスのルートやダイヤを決めるのではなく、地域の方々、バス事業者、タクシー事業者等が入った地域公共交通会議という会議体を立ち上げて平成32年度からの新しい公共交通体系に向けた取り組みを行っています。平成31年度は実証運行を行い、1年後には新しい公共交通体系に進めていきます。特に田原活性化対策本部から提出させていただいた持続可能な公共交通に関する提言書などを基に、JR線と田原地域を結ぶ直行便等をどれだけ増やしていけるかというような議論が行われています。先ほど質問もありましたが、ここで終わりではなく、ここで生まれた提言を行政が受け取り、次の形へ踏み出して行っている状況にあります。あるいは、規制の部分もありました。公共施設等の利用条件についての緩和は行政だけで出来ませんが、様々な規制と戦うには、実は市だけでは出来ないで国の力に頼っていかなくてはならないというところで、最近よく耳にするスマートシティと言うものが国でも盛んに言われています。実は、この田原地域ではいろいろな取り組みが出来るように名乗りを上げています。このように行政が出来る部分として、規制、利用スペース、交通、商業地域形成等については、皆様からのいただいた声をしっかりと大切にしていきながら、支所長を中心に私も携わりながら進めてまいります。それと同時に、訪れる方が増え、地域の方々の顔が繋がり災害時にも頼もしいコミュニティづくりが出来ないか、引っ越してこられて不安を抱えているお父さん、お母さんたちの不安を解消できないかなどの部分は、地域の皆様の力をお借りしながら、田原地域全体が持続可能で発展していくまちづくりに取り組んでいきたいと思っていますので、引き続きよろしく願いいたしまして、私からの最後の挨拶とさせていただきます。本日はありがとうございました。

司 会) 本日は、活性化対策本部の発表会にご参加いただきまして、ありがとうございました。皆様からいただいたご意見も参考にしながら、地域が主体となったまちづくりを進めていきたいと思っています。また、お帰りの際にアンケートボックスにアンケートをお入れ下さい。アンケートにご協力いただいた方には、プレゼントをお渡しします。

本日は、長時間にわたりありがとうございました。

最後に、本日ご参加いただいたみなさまと一緒に記念撮影をしたいと考えています。
後方から撮影いたします。

司 会) ここからは、職員の楠に担当を交代します。

楠) それでは、一度練習をします。ご起立してください。両手を開いていただき「パー」のまま顔の付近にもってきて下さい。小顔効果があります。本部長の「たわらのわ」の掛け声で、皆さんは「わー」と口を開いてください。
一度練習しますね。練習は私から。「田原地域の活性化に向け、
「たわらのわ」 「わー」

練習1回 撮影

楠) それでは、本番まいります。本部長よろしく申し上げます。

本部長) 「田原地域の活性化に向け、たわらのわ」

～「わー」(笑顔)～

司 会) 本日はありがとうございました。
気を付けてお帰りください。